

れんさい 監査の四季

第2回 鯖江市代表監査委員
川中清司

パンダ元気で つつじ咲け

八重桜が散って春をしめくくると、西山の主役つつじが登場します。

紅、緋、白、紫と咲き誇る、その数は4万3千本。西山を訪れる客は年に64万人。パンダも元気でお出迎え。こども達の人気の的です。

ここは、昔、茶山と呼ばれた藩の茶畑でした。幕末に黒船が来て物情騒然とした中で、藩主間部詮勝が人々の心を慰め、「衆と楽しみ同じく」しようと公園を拓きました。

花が咲くまでには施肥、剪定、雪囲いなどの世話が要ります。動物園



にはレッサーパンダ12匹、孔雀やサル、ツルなど60点がいます。いずれも病害から守り育てあげるには経験と慈しみの心が大事です。

動物園は、訪れる人々のストレス解消に効果的と言われ、「癒しのあるまちづくり」には欠かせません。また動物にとつて棲みやすい環境をつくることも重要です。動物と人との交流を深めるため、動物園友の会も発足しました。

パンダは竹の葉が好物、2年目の食べ頃のものを選んで毎週運びます。動物の飼料代は計578万円におさえ格安に協力を求めています。

日本庭園の池は年2回、大清掃。約百匹の鯉をそつと移してから、水を抜きヘドロをバキュームで吸い取り高圧で洗浄する。鳥から守り異常気象で死なないように気を配ります。

こうした世話は公園住宅課が当たります。

西山公園は維持管理の総費用ざつと6千万円。市民の大事なゆとりと憩いのパブリックスペースです。

公園は鯖江の誇り。住民の一人ひとりが管理人。